

令和6年度 小平市立小平第八小学校 学校評価報告書

学校教育目標 学習指導要領に基づき、東京都教育委員会の教育目標及び基本方針、小平市教育振興基本計画を踏まえて教育課程を実施する。「確かな学力、豊かな人間性、健康な体」を基盤とし、コミュニティ・スクールとして、保護者、地域が一体となった学校づくりを目指す。地域に根ざした教育活動を推進することによって、「思いやりがあり心豊かな子」「すすんで社会に貢献しようとする子」「自ら学ぶ創造力豊かな子」「健康でたくましい子」の育成を目指し、教育目標を設定する。◎思いやりのある子 ○よく働く子 ◎工夫する子 ○元気な子

目指す学校像(ビジョン)
 【目指す学校像】 ○児童が登校を楽しみにする学校 ○保護者や地域社会に信頼され、応援していただける学校
 【目指す児童・生徒像】 ◎思いやりのある子 ○よく働く子 ◎工夫する子 ○元気な子
 【目指す教員像】 ○それぞれの立場でよさを発揮し活躍する教員

前年度までの学校経営上の成果と課題
 学校評価の各項目において保護者・地域の方から、概ね肯定的な回答を得ることができた。各学年の発達段階に応じた、児童発案の活動を多く取り入れ、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。今年度は開校60周年を迎えるので、改めて学校・地域・家庭の連携を大切にして、コミュニティ・スクールとしての地域力の活用を目指していく。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	授業・モジュール・家庭学習等で繰り返し練習させ、小テスト・計算名人検定・東京ペーシックドリルを行い、漢字や基本的な計算を習熟させる。	3	3	<成果>授業やモジュール、宿題を通して、漢字が定着している。 <課題>どの程度できていれば基礎学力が定着できたと見なすのが明確ではないため、自分の見方ではかると定着までは課題が残る。 →今後、AIDリルをどのように活用していくかも含め、検討を行う。	3	4	・ICT活用が本格化してきていると感じている。ICT活用と読解力との相関関係に留意したい。 ・AIDリルの特性で、反復学習を無理なく取り組める点が優れていると感じる。	<成果>Monoxerを活用して漢字や計算を繰り返す児童が、自らどんどん進んで学習できた。 <課題>AIDリルを導入したことによる学習効果がまだ分からない。また、AIDリルの特性から、教師の声掛け、支援が難しいと感じる。→紙によるドリルのときと比較し、検証する必要がある。
	1人1台の学習者用端末を活用して、個に応じた指導を工夫する。	3	2	<成果>学習者用端末か手書きかを選ばせたことにより、自分の考えを表現する機会が増えた。 <課題>一斉の指導、使用になっているため、個に応じた指導に活かす事ができなかった。→クロームブック活用計画を見直し、学校全体で計画的な指導を実践する。	3	3	・Monoxerは、保護者の確認や丸付けの機会が減り、見えづらくなっていると感じる。	<成果>ロイノート、ドキュメント等を通して、個に応じた指導や視覚的に理解しやすい指導を工夫することができた。 <課題>低学年は、操作することに慣れていないため、授業の中でなかなか活用することができなかった。→年間計画を見直し、各学年ごとのタイピングやアプリケーションの到達目標を設定する。
健全育成	毎月行われる校内委員会やいじめ対策委員会を中心に、組織としていじめ防止の取組を推進し、未然防止・早期発見・迅速かつ丁寧な対応に努める。	4	4	<成果>いじめ調査や校内委員会だけでなく、共有、管理職のアドバイスと対応によって、組織対応ができた。 <課題>迅速に対応する場合、担任の責任と手腕が問われると再度感じてしまった。→管理職に報告して判断を仰ぎ、その後いじめ対策委員会の中で情報共有を行う手順を取る。	4	4	・個々の問題もある。解決も難しい。だが、こどもたちは、全体として思いやりのある優しい児童に育まれていると思う。挨拶、廊下歩行、清掃は、強調期間を過ぎるとできなくなることの繰り返し。定着には意識改革教育の徹底が必要。 ・担任が学年全体で関わったり、休み時間に児童と共に遊んだりしている様子が評価できる。	<成果>校内委員会では、配慮を要する児童について共通理解をし、今後の対策について相談することができた。 <課題>児童との触れ合う機会が少なかった。→朝の登校時間や休み時間等、児童と積極的に触れ合う時間を設ける。
	「挨拶・思いやり・清掃・廊下歩行・外遊び」に関する月目標を設定し、全教員で一致した指導を行う。	4	3	<成果>多くの児童が月目標を意識している。全校朝礼で周知できていることが良い。 <課題>各教員の思いや経験値から、指導にずれが生じてしまう部分がある。→八小生活スタンダードを基にした指導を徹底していく。	4	4	<成果>月の初めだけでなく、週の始めや、週半ばでも月目標を確認する時間を設け、意識付けを図った。 <課題>月目標に対する意識が下がってしまった。→週目標は廃止されたが、児童の実態に合わせてスモールステップで目標を示し、月目標を達成できるようにする。各学級、朝の会で意識をさせ、帰りの会で振り返るとよい。	
キャリア教育	生活科・総合的な学習の時間や特別活動等を核とした授業や日常生活において、学年に応じたキャリア教育の実践を行う。	3	3	<成果>児童主体の学校生活が児童をいきいきとさせているように思う。 <課題>学校としての軸となる学びの型を共有する必要がある。→発達段階に応じて身に付けるべき力を教師が意識して指導にあたる。	4	4	・総合的な学習の時間を始めたとして社会教育は、充分強化されていると思う。児童発案・自分で考える教育も、教科横断的に実行されていると思う。 ・高学年児童のリーダーシップを下学年児童が憧れをもって手本にしている様子が伝わってくる。	<成果>生活・総合的な学習の時間の授業作りを、研究分科会で時間をかけて行うことで、児童の「やりたい」を実現させよう心掛けた。 <課題>専科として取組が難しかった。→他教科の学習(専科を含む)、日常生活においても、人との関わりや主体的な行動を意識して指導し、価値付けていく。
	全学年で発達年齢に応じた児童発案の活動を実施する。	4	3	<成果>特別活動を中心に、児童発案の取り組みができた。 <課題>どこまで児童に考えさせるべきか難しい。→児童の発達段階に応じて、教師が提示する部分と、児童に考えさせる部分をはっきりさせることで、無理のない活動にしている。	4	4	<成果>クラブや委員会、運動会等で児童発案の活動ができた。 <課題>時間がかかるので、年間計画上の教科のつながりを考えないといけない。→児童の発達段階や実態に合わせて、学級や学年、クラブ活動や委員会活動で児童発案の取組を意識的に行う。学校全体に関わる行事等に関しては、ねらいを踏まえて取組の内容や児童発案の範囲を精選していく。	
コミュニティ・スクール	ホームページの更新を週1回程度、コミュニティだよりは月1回発行、必要に応じて地域教育コーディネーターだよりを発行する。	3	3	<成果>更新することによって、新たに連携する外部の方が本校について事前に調査できる。 <課題>毎週の更新ができなかった。→月の更新回数は、業務改善との両立を図れるように、回数を検討する。	3	3	・学校経営協議会の本来の機能・位置付けについて、委員・教職員・保護者・地域が共に、より深く理解して、「PDCAサイクル」を廻していく必要がある。地域学校協働活動と社会に開かれた教育課程との関連付けを明確にしたい。そのための具体策を講じ、実行したい。	<成果>担当者を中心に、CSが運営できている点に感謝している。 <課題>・ホームページの必要性やあり方について、今後、検討が必要かと思う。→更新の頻度について、月1～2回をノルマにして校内に周知する。 ・ホームページをアップする方法について、年度当初に校内研修を行う必要があった。→年度当初に主に異動者を対象にした校内研修を行う。
	全教員が輪番で学校経営協議会に参加し、授業で積極的に地域人材の活用を図る。	2	2	<成果>・地域の方が立ってくださって本当に助かった。 ・体験活動や地域の施設を活用した授業等において、積極的な協力を得られている。 <課題>すすんで地域の方々関わってほしい。	3	3	<成果>・総合的な学習の時間では、たくさんの地域の方々にお世話になった。 ・地域コーディネーターの力も借りることができ、授業の幅を広げることができた。 <課題>特に総合的な学習の時間で、必要とする人材の確保、その際の費用等、課題が多かった。→学校だよりや年度末の保護者会等で情報発信し、生活・総合的な学習の時間に協力が可能な保護者・地域人材を募る。	
業務改善	日々の業務の精査を行い、事務作業についてはSSSとの連携を図りながら行う。	3	3	<成果>SSSさんのおかげで負担が軽減されている。 <課題>みんなで知恵を出して業務の精査を進めているものの、年々新しい業務が生まれているためか、中々負担感が減らない。→教職員から出た意見をもとに、実現可能なものから早急に行動に移していく。	4	4	・校内研究とセットで業務の削減を行ったのは良かったと思う。授業準備時間確保のために、校務を業務毎に、やめたらどんな不都合が起こるのかを見極めて、真に必要なものだけに純化していくための、定期的な業務の棚卸が必要。	<成果>校内研究とセットで業務の削減を行った。 <課題>・放課後の仕事の時間が確保されない。→国、社、体、理の教科担任制を導入する。(授業準備時間の削減) ・日頃より、休憩時間は仕事をするしかない。→法令に則り、休憩時間の確保や退勤時刻の厳守が適切にできるように、互いに声を掛け合い、意識改革を行う。